【映画推薦文】

**　伊波　敏男さん：元ハンセン病患者・作家**

あなたが通い続けた、一つの島の二つのハンセン病療養所、長島愛生園と邑久光明園、そこに隔離され、人生を奪われた人たちの怒りや悲しみに耳を傾け、寄り添い、信頼を勝ち得た中で、この映画は生まれた。

映像記録は歴史証言となり残り、後世に伝えられる。

この映画は宮崎賢さん、あなたしか成し遂げられない偉業です。

国が人を捨て、国民や社会が、この人たちの存在に目と耳を塞いだ終着が教える証言です。

このドキュメンタリー映画から、同じ過ちを繰り返さないために、私たちは何を学ぶのか。

新型コロナウイルスの世界的パンデミック、ロシアによるウクライナ国民の虐殺が引き起こされている今だからこそ、この映画が示す未来への鍵が見つかることでしょう。

伊波 敏男・作家。1943 年、沖縄県生まれ。14 歳のときハンセン病療養所に入所し、その後全快。1958 年に国立療養所沖縄愛楽園をノーベル文学賞作家、川端康成が　訪問し対面。伊波さんの作文を読んだ川端から文才を認められた。

1969 年、社会福祉法人東京コロニーに就職その後、常務理事を務める。

代表作に、自らの半生記「花に逢はん」（1997 年、沖縄タイムス出版文化賞受賞）や、「ハンセン病を生きて」（2007 年）など。